



# Antiques \*Midi

Vol.18  
FREE PAPER  
SPRING 2024

フランス、イギリスで見つけたアンティーク家具とインテリアアイテムを扱うアンティークショップのフリーペーパー第十八号



フランスの  
偉人が愛したアンティーク

アンティークスミディ  
〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-9-6 3F  
Tel / Fax 072-728-4777  
Open 12:00 ~ 19:00  
Hp → <http://www.antiques-midi.com>  
Mail → [info@antiques-midi.com](mailto:info@antiques-midi.com)  
Instagram → @antiquesmidi

PERSON 2

LOUIS XVI



ルイ 16 世 (1754~1793)

前述のマリー・アントワネットとともにゆかりの深いフランスの偉人・ブルボン朝第5代のフランス国王・ルイ16世。

1770年15歳の時にマリー・アントワネットと結婚。父と兄が若くして亡くなったため、祖父にあたるルイ15世の死後、フランス国王に即位。まだ19歳の時でした。人柄としては、おとなしくてお人好し。華やかで活動的なアントワネットとは対照的に、どこか地味で冴えない青年だったと言われています。物理学や地理学をこよなく愛し、指物細工や時計作り、特に錠前作りが好きだったというのもルイ16世を語る上で外せない有名なエピソードです。

アントワネットと異なり、インテリアなど華やかな装飾品にはまるで興味がなさそうなインテリ系のルイ16世ですが、地理学に情熱を注ぐあまり、地理学専用の私室を設け、地図を描く専用のデッサン用テーブルや、大きな地図を広げるためのテーブルを特注したことがあるそうです。地図を広げるためのテーブルは、直径は2メートルを超え、一枚板のマホガニーでできたとても贅沢なテーブルでした。



ルイ16世からインスパイアされたコーディネートは大きなテーブルに大きな地図。まるで図書室のような大きな書棚にはたくさんの書物。時計やバロメーターなどアカデミックなアイテムを集めて。傍にはルイ16世スタイルと呼ばれるストレートレッグのアームチェアや、特注の重厚なテーブル、一国の主としての権力を誇示するような豪華なアイテムもプラスしてコーディネートをとめました。

LOUIS XVI STYLE CHAIR

直線的なラインで構成されたエレガントな姿。トップには松明や矢筒、アカンサスのモチーフが立体的に表現された美しい姿です。



His Favorite Things.

CANDLE STAND

まだ電気のなかった時代なので、読書や勉強、繊細な作業には欠かせなかったであろうランタンやキャンドルの灯り。



GEOGRAPHY

マリー・アントワネットとは対照的に、自己主張が控えめなルイ16世が唯一とてもこだわった趣味の私室。大きな地図を広げるための大きなテーブルを再現。

CLOCK & LOCK

時計作りや錠前作りが好きだったというエピソードから、頭が良だけでなくとても手先の器用な人物であったと想像できます。



FLEUR DE LIS

言わずと知れたフランス王家の紋章。アンティークの雑貨にさりげなくあしらわれていることがあります。ルイ16世は、戴冠の儀式の際もフルール・ド・リスを描いた衣装(ローブ)を纏っていました。



PERSON 3

NAPOLÉON III



ナポレオン 3 世 (1808~1873)

前述のフランス革命を経て、フランス王政は廃止。無情なことに、ルイ16世もマリー・アントワネットも処刑され、ひとつの時代が幕を下ろしました。フランス革命以後は革命軍が政権をにぎり、これに反対するクーデターも起こり、不安定な状態が続きましたが混乱を收拾し、軍事独裁政権を確立したナポレオン・ボナパルト(ナポレオン1世)が1804年に皇帝となりました。ここからナポレオンによる帝政が幕を開けます。

このナポレオン3世はナポレオン1世の甥にあたり、ナポレオン1世の没後、彼の名声を利用して1852年に国民投票で帝位に就き、ナポレオン3世となりました。

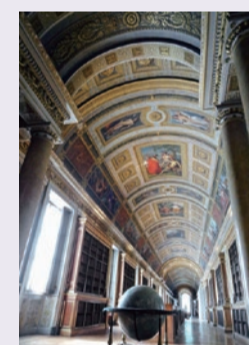
ナポレオン3世によるフランス第二帝政の主な舞台となった

のが、ベルサイユ宮殿と同じく世界遺産に登録されている、フランス最大の宮殿「フォンテーヌブロー宮殿」

宮殿はフランス革命により一度は荒廃しましたがナポレオン1世が気に入り、増改築を経て再び美しい姿を取り戻したと言います。

ナポレオン3世の実際の暮らしぶりなどはあまり記録がありませんが、ナポレオン3世も宮殿の改装に携わっていたようで1万6千冊もの蔵書を誇る図書室を作ったのはナポレオン3世なのだろう。

また、フォンテーヌブロー宮殿の広大な敷地内にある三位一体礼拝堂ではナポレオン3世の洗礼式、結婚式なども執り行われました。



ナポレオン3世により図書室に改装されたディアナの回廊

His Favorite Things.

TRICOLORE

フランスの軍服は、国旗であるトリコロールカラーがモチーフとなっています。ちなみにナポレオンといえば、二角帽子を被り、馬にまたがった肖像画をイメージしますがその人物は、実はナポレオン1世。その甥であるナポレオン3世も同様にトリコロールの軍服に身を包み、立派な口髭が特徴的な人物です。



アンティーク家具の世界でナポレオンから連想するものといえば、「ナポレオン3世スタイル」の家具。特にチェアが代表的で俗にナポレオンチェアと呼ばれています。ナポレオン3世スタイルとは、19世紀中頃~後期のナポレオン3世が皇帝になった時代(在位1852~1870年)にフランスで流行した家具のデザイン様式のこと。シノワズリ(中国趣味)を取り入れ、漆器をイメージした黒地に金の模様や、バンブーに似せてわざと施した節のようなデザインが特徴的で、ヨーロッパの人々には珍しかった東洋の雰囲気を独自に生み出したもの。ナポレオン3世自身が好んだアイテムとは少し異なりますが、ナポレオンチェアをメインに、ブラック系のアイテムでかっこよくまとめた、ナポレオン3世自身を象徴するようなコーディネートを作りました。

MOUSTACHE CUP

肖像画を見ると、ナポレオン3世は立派な口髭をたくわえた姿が印象的です。ナポレオン3世が実際に使っていたかどうかは定かではありませんが、口髭を汚さないようにお茶が飲めるムスタッシュカップ。フランスアンティークならではのユニークなアイテム。



NAPOLÉON III STYLE FURNITURE



## ❖ フランスの偉人が愛したアンティーク

フランスの偉人といえば誰を思い浮かべますか？

長きにわたって政権を執ってきた王族、革命家、芸術家に音楽家。

パッと思い浮かぶだけでも、錚々たる歴史上の重要人物が名を連ねます。



今回は、18世紀から19世紀ごろにかけてフランスで活躍した歴史上の人物にスポットを当て、彼らが好んだデザイン様式やひととなりをもとに Midiの遊び心を織り交ぜながら、その人物を象徴するような インテリアコーディネートを楽しんでみました。



### PERSON 1

## MARIE ANTOINETTE



マリー・アントワネット (1755~1793)

豪華絢爛の象徴、マリー・アントワネットは最も有名なフランス王妃。「パンがなければ、お菓子を食えればいじやない」のセリフはあまりにも有名です。(実はアントワネットの言葉ではなかった、との真相が現代では明らかになっています) フランス革命の時代を生き、そして翻弄された悲劇の王妃とも言われています。

オーストリアの王家に生まれ、フランスとオーストリアの同盟のための政略結婚で、まだわずか14歳の時に、フランス国王ルイ16世(後に登場)の正妻となりました。王妃として申し分ない美しい容姿、ライフスタイル、誰もが憧れる華やかなファッション、ヘアメイクなど当時からフランス国内のみならず、ヨーロッパの貴族たちの注目を集めていたそう。その圧倒的なカリスマ性は、後世にまで語り継がれ、現代でもマリー・アントワネットをモデルとした映画や書籍など多くの作品が残されています。

ロココ全盛期であったルイ15世の時代から、その孫であるルイ16世へと政権が渡り、時代の流れと共にデザイン様式も装飾的で曲線を多用した家具から、ストレートレグなどを用いたややシンプルな家具へと移ろいでいきますが、アントワネットは、依然として自分の好みのスタイルを貫いていました。

王の元で慎み深く過ごしていた歴代の王妃と異なり、アントワネットは自由に振る舞い、ベルサイユ宮殿に自分の趣味を多く持ち込んだと言われています。私室の家具は、パリで最も有名な家具職人に注文し、王妃はどんなに些細な装飾や家具類にも自分の趣味を反映させたのだそう。明るく陽気な装飾を好み、花に囲まれることを愛し、壁掛けやカーテン、ベッドカバー、磁器なども花柄のものを作らせ、インテリアを楽しんでいたそうです。他にも、プチポワンの刺繍であったり、トウル・ド・ジュイなども好んでいたと言われています。

マリー・アントワネットが暮らしたベルサイユ宮殿は、現代ではフランスが誇る世界遺産であり、人気の観光スポットです。圧巻の豪華な建築、華やかな設えはとても見応えがありますが、王妃の面影をより感じたい方は、同じ敷地内にあるマリー・アントワネットが愛した離宮プチ・トリアノンへも足を伸ばすのがおすすめです。

プチ・トリアノンは、しきたりだけで窮屈な宮殿の生活から逃れ、唯一王妃の心安まる場所だったと言われています。インテリアも好きなものだけを集め、全てをアントワネット好みに。より深く、王妃の暮らしぶりを垣間見ることが出来ます。

### Her Favorite Things.

#### HARP

王家の嗜みとして幼少期からトップクラスのハープのレッスンを受けていたアントワネット。母となった時には、子供たちを寝かしつける際に自作の子守唄を奏でていたのだそう。晩年には、幽閉されたタンブル塔にも持ち込み毎日弾いていたと言われるほど、生涯にわたって愛した楽器でした。



アントワネットからインスパイアされたアンティークコーディネートは、アントワネットが好んだと言われる豪華絢爛なロココ様式。プチ・トリアノンの再現…は難しいですがアカンサスの葉やシェルをモチーフとしたゴールドのフレーム、クリスタルがたっぷりのシャンデリアなど煌びやかなアイテムをベースに花柄のアイテムを散りばめて…



プチ・トリアノンのお共の間にもハープが展示されています。



ハープを演奏するマリー・アントワネットの絵画。

#### PETIT TRIANON

プチ・トリアノンとは、ベルサイユ宮殿の広大な敷地内にある離宮。元々はルイ15世がボンパドゥール夫人の為に建てたものですが、アントワネットはこの離宮を夫のルイ16世から与えられ、ここで自身の子供たちやお気に入りの人たちと多くの時間を過ごしました。宮殿の堅苦しい暮らしから解放され、好きなものだけに囲まれたまさに「マリー・アントワネットの館」といえます。

後世ではマリー・アントワネットをモチーフとした食器のデザインも多く作られました。こちらはBadonvillerのTrianonシリーズ。マリー・アントワネットが愛した草花が繊細に描かれています。



#### FASHION

マリー・アントワネットといえば、現代のファッション界にさえ影響を与えるほどの永遠のファッションリーダー。当時から注目の的であったことは言うまでもありません。ビーズや刺繍(プチポワン)、リボン、フリルのついた装飾過多のドレス、きつく締めたコルセット、高く大きく結い上げたヘアスタイルなど、流行の最先端でした。

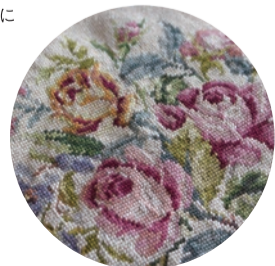


当時のフランスで香水といえば、体臭を消すことを目的としたムスクや動物系香料の強い香りのものが主流でしたが、アントワネットは、バラやスマイルの花やハーブなどの軽やかで華やかな香りの香水を愛用し、貴族たちの間でも流行するようになりました。



#### PETIT POINT

フランス語で「小さなステッチ」を意味する伝統的で細やかな刺繍プチポワン。フランスで流行したイメージが強いですが、元々は18世紀にオーストリアのハプスブルグ家から発祥したと言われています。(ハプスブルグ家といえば、アントワネットの実家に当たります) アントワネットの母、マリア・テレジアもプチポワンをこよなく愛していたそう。アントワネットは、フランスに嫁いでも調度品やドレスにプチポワンを多く用いたのだそう。もしかすると、プチポワンを身にまとうことで、母や故郷の面影を感じられたのかもしれない。



#### FLOWER

特に薔薇、ヒヤシンス、チューリップ、アイリスなどを好んでいたと言われています。肖像画で手にしている「ロサ・センチフォリア」はフランス語で「100枚の花びら」という意味を持つ花卉が豊かなオールドローズで、アントワネットはその香水も愛用していたのだそう。花は王妃の私室のテーマでもあり、クリスタルやヴェネチアンガラス、セーブル磁器などのフラワーベースに花を常に生けているのももちろんのこと、花柄のソファやカーテンなどを特注で作らせ、インテリアも花で溢れていました。



#### TOILE DE JOUY

トウル・ド・ジュイとは、18世紀頃の人物・風景、神話、天使、花や植物をモチーフにし、単色または2色でプリントした布や柄のこと。18世紀フランスのロココ調絵画を思わせるようなデザインが多いのも特徴です。ベルサイユ宮殿の家具や壁紙としても使用されていたそう。



# Recommend

## Antique torso



きゅっとくびれのある女性らしいシルエットのボディにブラックの生地が張られたシックなトルソー。フランスの老舗メーカーである、“STOCKMAN” のもので長い時を刻んだシャビーな質感が深みを増し、ショップの空間作りにもおすすめの一品。  
[France]

## Paint sideboard



繊細なリボン装飾が可憐で、淡いグレーカラーが上品なフレンチサイドボード。扉付きの収納スペースに引き出しと、機能性にも優れた逸品。フランスらしい優雅さのある装いでラグジュアリーなお部屋作りにぴったりのアイテムです。  
[France]

## Fruits basket



フランス・マリコンヌ窯で作られた陶器製のフルーツバスケット。独創的な造形が魅力のemile tessierの作品で、果実や葉の一つ一つまで丁寧に作り込まれた見目麗しいデザインがパッと目を惹きます。  
[France]

## Glass dome frame



上品な艶のブラックペイントがシックなガラスドームフレーム。ぶっくりとしたガラスの形状が壁面に奥行きを与え、中に飾ったものをより素敵に演出。大きさの異なるフレームたちと一緒に飾り、華やかなウォールデコレーションを楽しむのもおすすめ。  
[France]

## Personne populaire au \*midi

WEB掲載アイテムを毎日紹介しているMidiのInstagramアカウント (@antiquesmidi) の、昨年度にポストした中で最も人気の高かったものを3つ、ランキング形式でご紹介！

1

### Antique Cupboard

全て僅差でしたが見事1位に輝いたのはホワイトカラーが眩しいペイントカップボードでした！ホワイトカラーの家具に瑞々しいグリーンが映える爽やかな一枚。淡い色味の合わせが可憐さと優雅さを演出し、なんだか気持ちの良い朝をイメージさせられる空間に。Midiで人気の高いホワイト系のアイテム、実物はもちろんですが写真でもやっぱり“映える”逸品ですね。

2

### Writing Bureau

次点で人気だったのは細やかな造形が美しいライティングビューロー。Instagramのディスプレイ動画ではメイン家具として登場し、スタッフとしても思い入れの強いアイテムです。この投稿では繊細なロカイク模様美しい扉部分の装飾に着目して撮影。思わずうっとりと思いついてしまうような造形で、撮影している際にも陰影で浮かび上がる見目麗しいデザインにハッとするアイテムでした。

3

### Antique Chair

締めはこちらのアンティークチェア。Midiで取り扱っている椅子の中でも人気の高いデザインの一つで、入荷するとすぐにお嫁行きが決定している印象です。撮影では、やや上からの視点で背もたれのアーチ装飾がより美しく見える角度を意識して。威厳あるデザインながらもぶっくりとした丸みがなんとも言えない絶妙なバランスです…！装飾性の高いデザインはやはりパッと目を惹きます。

ほぼほぼ横並びでしたが、1位から3位までこのような結果に。投票と共にコメントをくださった、いいねを押してくださった。フォローして下さっている皆様との繋がりを身近に感じられるいい機会となりました◎ Instagramのアンケートにご協力くださった皆様、本当にありがとうございました！

### Q. オーナー・スタッフ個人のお気に入り投稿は？

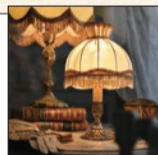


OWNER  
買い付け時に目を引いたアンティークが実際に使われているかのようなスタイリングは、Midiらしさを感じる雰囲気でお気に入り。ブルーの椅子がポイントのディスプレイも蚤の市の様子が出ていて好きな1枚です。



STAFF TSUKI

膨らんだシェードがくっきりと浮かび上がったテーブルランプの美しさと、優しい光に包まれた穏やかな空間が印象的で選びました。



黒い背景とのコントラストによって商品が際立ち、立体感のある鮮やかな美しさが感じられるところが気に入っています。



STAFF CHIE

### Q. 撮影スタッフのこだわりの一枚は？



STAFF YUKARI

明るい色味にブラウンカラーのチェアをアクセントとしたコーディネートで、テーブルを囲んで賑やかに過ごしているような雰囲気が出るようにディスプレイしてみました。この時期はフレッシュなアセビの木がMidiにいてくれたので、明るい印象作りに活躍しました。

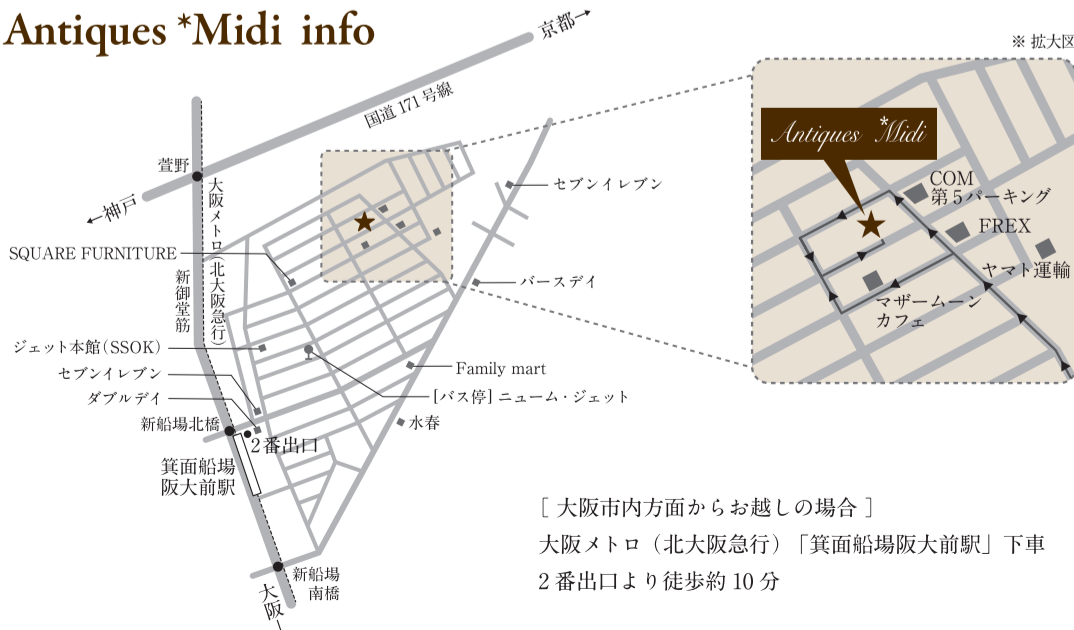


背景にはやや高さを抑えた家具をチョイスし、華奢で繊細なフレームを目立たせて活かすディスプレイに。可愛いデザインアイテムだったので、全体的に淡く甘やかな子供部屋をイメージして空間作りを行いました。ミラーの前にチャイルドトルソーを配置して、小さな子がおしゃれを楽しんでいる雰囲気に見立てた一枚です。



STAFF MIYA

## Antiques \*Midi info



〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-9-6 3F  
Tel / Fax 072-728-4777  
Open 12:00 ~ 19:00  
定休日なし(年末年始を除く) 駐車場有り  
http://www.antiques-midi.com

